医師

第5回白鳥・市民健康セミナーを終えて

歯科口腔外科副部長　宇佐見　一公

平成26年３月１日、名古屋国際会議場にて第５回白鳥・市民健康セミナーが開催され、287名もの方が来場されました。今回のセミナーは「認知症を正しく知ろう」というテーマでしたが、老若男女さまざまな年代の方がセミナーに参加され、無事に終えることができたことを嬉しく思います。

はじめに、加藤院長代理が人間の脳の重さについてお話されました。サルより４倍近い1.5kgもあるのは、想像力が飛躍的に高いためと説明され、人間の脳の多様性について考えさせられました。

まず、上條第三神経内科部長が、「認知症診療の実際」というテーマで講演されました。その中で、認知症セルフチェックと題し15項目がスライドに紹介されると、自分が当てはまるのではないかと会場がざわつく場面がありました。結果的には、「認知症ではないかと心配すること」自体、認知症ではないと紹介されると会場は安堵とともに笑いも起こっていました。また、認知症は早期診断が大切であること、画像検査だけでなく心理検査も重要であることなど専門的立場から分かり易く講演されました。

次に、滝沢認知症看護認定看護師が、「認知症の正しいケアで自分と大切な人を守る」というテーマで講演されました。その中で、認知症の患者さんにみられる≪もの盗られ妄想≫への対応についてお話がありました。認知症の患者さんに怒ったり、叱ったりなど感情的なやり取りは逆効果となるため、一緒になくしたものを探して見つけてもらうことが大切であることを学びました。

最後は、竹内医療ソーシャルワーカーが、介護保険制度について講演されました。介護保険の認定を受けることで、車いすや医療用ベッドなどが１割負担で使用できることなど、かなり具体的に説明されました。来場者からは「へぇー」と興味を持つような声が聞かれました。保険制度を活用することは、介護側にとって経済的・精神的な負担の軽減に繋がることを強く感じました。

特別講演は、国立長寿医療センター脳機能診療部部長の鷲見幸彦先生が、「認知症の人をみんなで支える－認知症についての新しい知識－」というテーマで講演されました。日本で認知症の患者さんは、予備軍を含め800万人とされ、わずか２年後には４世帯に１人もの認知症の方がいることが分かりました。また、認知症の方は基本的に強い不安と自信を喪失していることが多いため、感情が相手によって変化すること、また介助者が同じ目線で行動をすることが必要だと紹介され、来場者からうなずく声が聞かれました。

認知症は、近い将来、私たちの身の回りに存在することを考えると、今回のセミナーが、認知症に対する興味や新たに発見をするきっかけになったのではないかと思います。市民セミナーをこのような形で終えたことは、運営に携わった広報委員会として大変嬉しく思います。今後も市民の方々に分かり易く、正しい情報を提供できるように頑張っていきたいと思います。